



グリーンボンドガイドライン等の改訂について

2022年8月3日

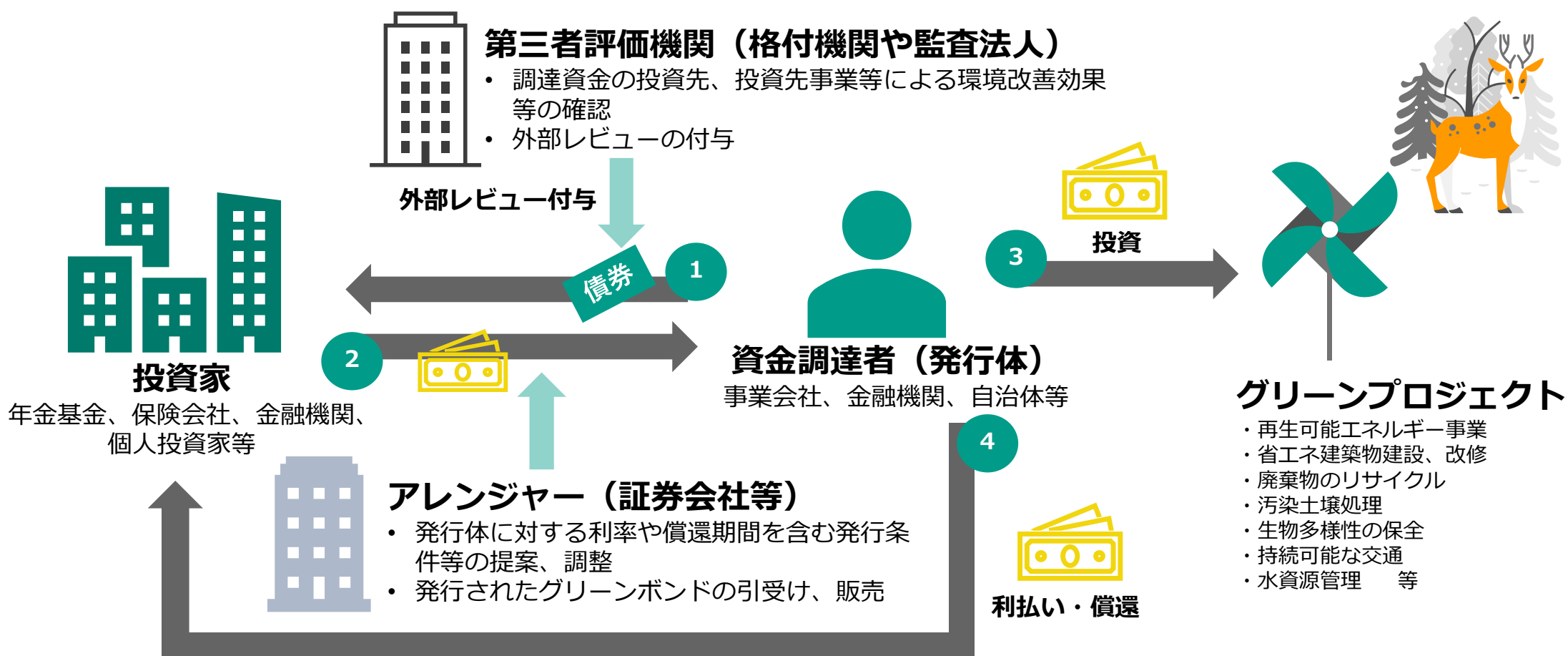
環境省環境経済課 課長補佐 水野紗也



グリーンボンドとは？

グリーンボンド

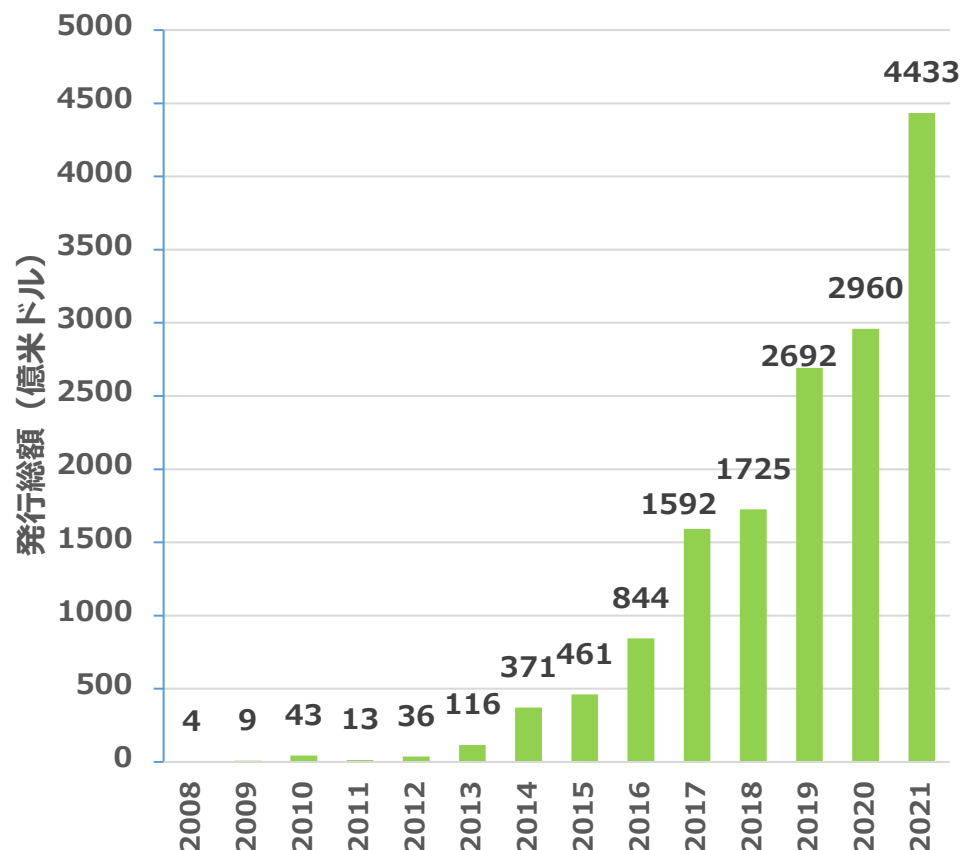
- 企業や自治体等が、グリーンプロジェクト（再生可能エネルギー事業、省エネ建築物の建設・回収、生物多様性の保全、資源循環に関する事業等）に要する資金を調達するために発行する債券。
- グリーンローンは上記のローン版。



世界・日本におけるグリーンボンド市場は着実に拡大している

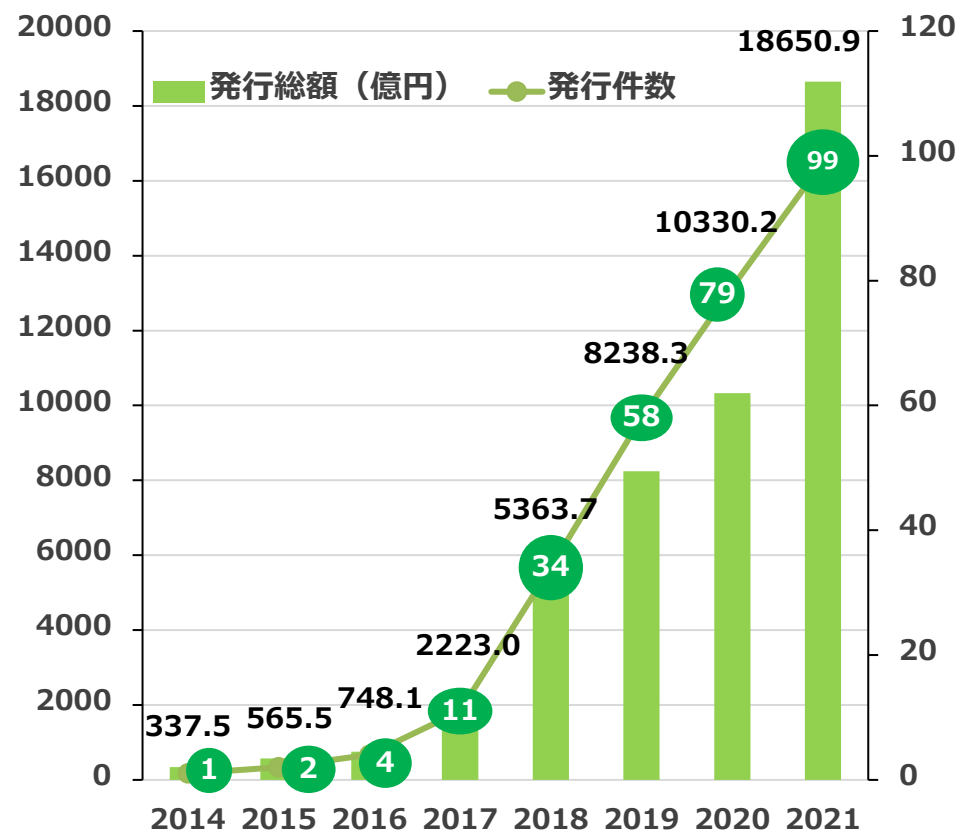
- ◆ 2021年のグローバル市場におけるグリーンボンドの発行額は、前年対比約1.5倍増加。
- ◆ 日本における2021年のグリーンボンドの発行実績は、件数99件、金額約1.87兆円と、昨年対比件数では約1.3倍、金額は約1.8倍増加。

世界のグリーンボンド発行額の推移（億米ドル）



出典：Climate Bonds Initiative HPより環境省作成

国内のグリーンボンド発行額の推移（億円）



出典：環境省作成

なぜグリーンファイナンスの拡大が重要なのか

グリーンファイナンスの推進は、気候変動問題に対応するための民間資金導入拡大を図る上で極めて有効な手段

- ◆ カーボンニュートラル実現のためには巨額な投資が必要。そのためには、**公的資金のみならず、大量の民間資金の導入が不可欠。**
- ◆ グリーンボンドを始めとするグリーン性が保証された金融商品は、下記の理由から実際の環境インパクトを伴った民間資金導入を拡大するための有効な手段。
 - ・ 事前・事後の外部評価と市場への説明が行われることにより、**環境改善効果（GHG削減）が強く担保されること。**
 - ・ 国際原則に整合した国内ガイドラインに則って実施されることで**国内外でグリーンと評価され、国内外のESG資金による投資対象となり得ること。**
 - ・ 公募債の場合、**企業にとっても調達上のメリット（市場における安定的な償却、投資家層の拡大、低金利での調達等）があり得ること。**

- グリーンファイナンス手法による資金調達は、**1) 企業のサステナブル経営の推進**につながることに加え、**2) 企業にとっても調達上のメリット（投資家層の拡大、低金利での調達等）**があり得る。
- また、**海外の企業では資金調達を全てサステナブル化する動き**もある。

グリーンファイナンス手法による資金調達の例（債券とローン）

◆ グリーンボンド（グリーンローン）

- 企業や自治体等が、グリーンプロジェクト（再生可能エネルギー事業、省エネ建築物の建設・回収、生物多様性の保全、資源循環に関する事業等）に要する資金を調達するために発行する債券。
- グリーンローンは上記のローン版。

◆ サステナビリティ・リンク・ボンド（サステナビリティ・リンク・ローン）

- サステナビリティ経営の推進を目的とし、企業や自治体等の資金調達者があらかじめ立てたサステナビリティ目標の達成度合いによって金利等の条件が変化する債券。
- グリーンボンドと異なり、調達する資金の用途に縛りはない（特定してもしなくても良い）。

例：達成したら金利が下がる、達成しなければ金利が上がる・相当程度の寄付を行う 等

- サステナビリティ・リンク・ローンは上記のローン版。

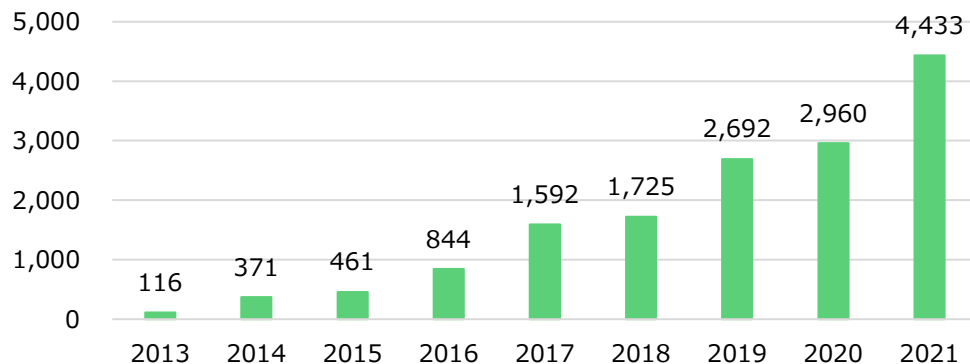


詳細はこちら
(グリーンファイナンス
ポータル)

【参考】世界/国内のグリーンボンド発行動向

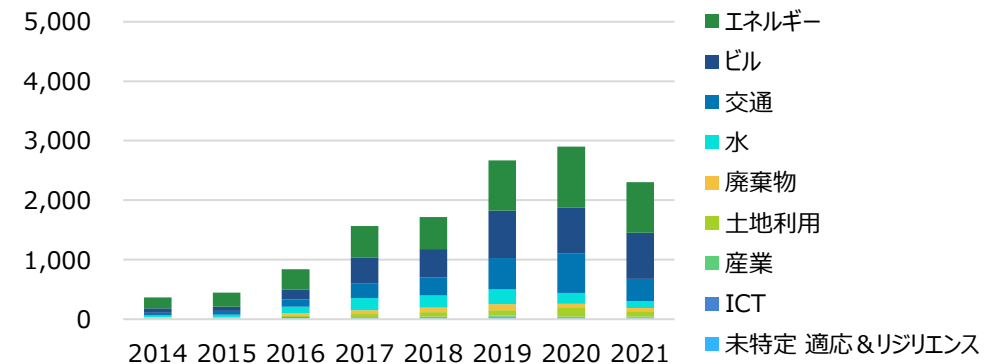
- 世界：グリーンボンド発行額は、2013年の116億米ドルから2021年には4,433億米ドルと、飛躍的に増加。欧州、アジア太平洋、北アメリカを中心に発行が増え、発行体や資金使途の多様化が進んでいる。
- 国内：2021年の発行件数は99件（昨年比125%）、発行額は1.8兆円（昨年比181%）となった。2021年は1件あたりの規模が大きな案件が目立ち、金額規模上位13件で総額約1兆円となった。

発行額推移（海外・億米ドル）



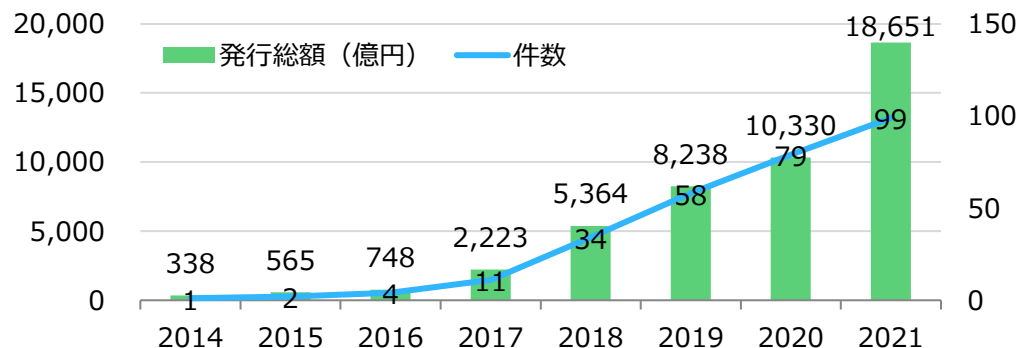
（出所）CBI Partner zone database (2022年1月14日最終更新) (2022年1月20日アクセス)

資金使途別推移（海外・億米ドル）



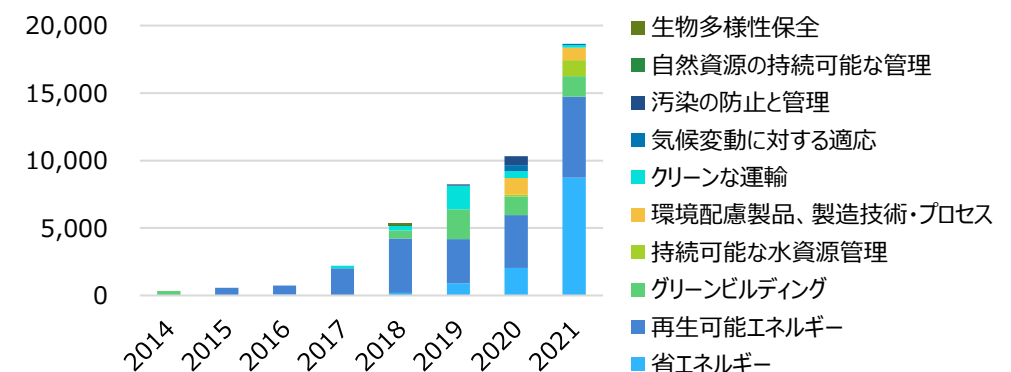
（出所）CBI Interactive Data Platform As of 2021 H1 (2021年12月13日アクセス)

発行額推移（国内・億円）



出所 環境省, グリーンファイナンスポータル (2022年1月24日時点)

資金使途別推移（国内・億円）※複数資金使途があるものについては、主要な用途と思われるものに分類

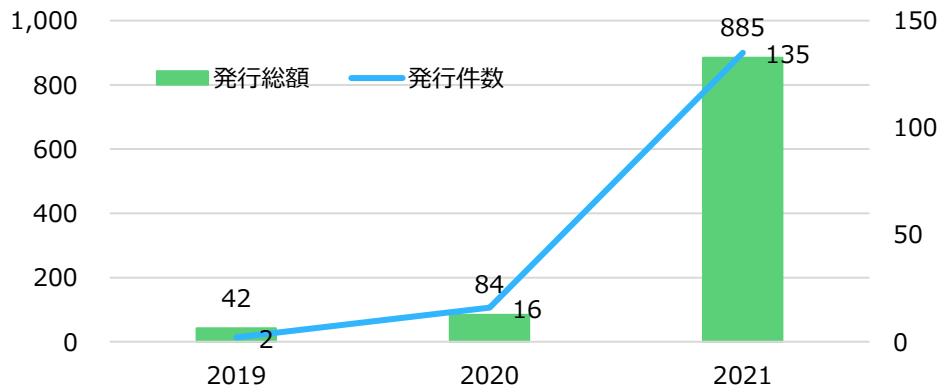


出所 環境省, グリーンファイナンスポータル (2022年1月24日時点)

【参考】世界/国内のサステナビリティ・リンク・ボンド発行額推移

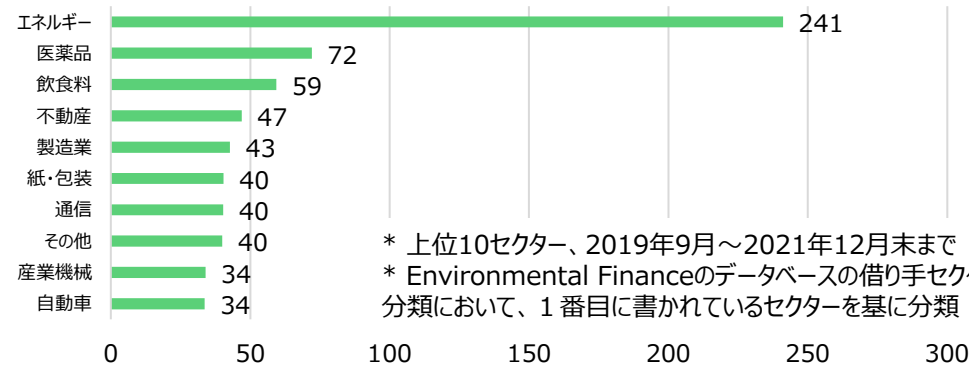
- 世界：サステナビリティ・リンク・ボンドの2021年の発行額は前年比約10倍と、飛躍的に増加している。
(尚、ICMAのSLB原則は2020年6月に発行されている)
- 国内：2021年は9件（昨年比450%）、1,260億円（昨年比630%）の発行があった。
市場は拡大しているものの、海外や国内の他商品と比較すると未だ小さい。

発行額推移（海外・億米ドル）



出所 Environmental Finance (2022) database、2022年1月20日取得データを基に作成

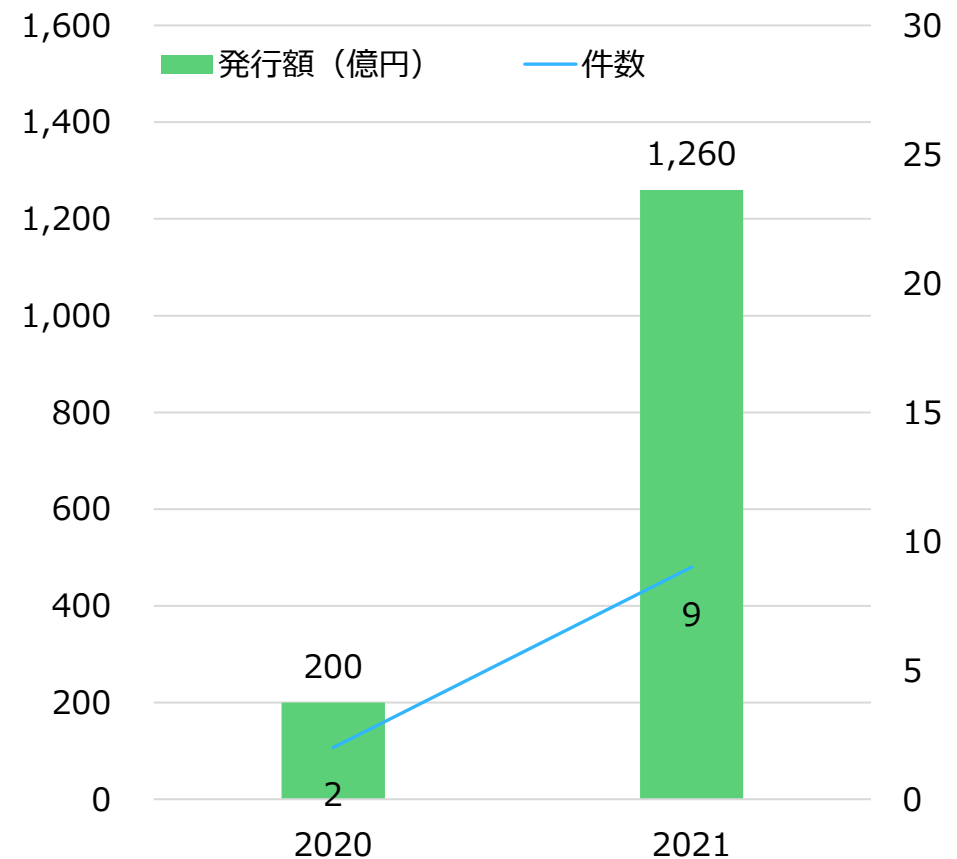
発行体セクター別累積発行額（海外・億米ドル）



* 上位10セクター、2019年9月～2021年12月末まで
* Environmental Financeのデータベースの借り手セクター分類において、1番目に書かれているセクターを基に分類

出所 Environmental Finance (2022) database、2022年1月20日取得データを基に作成

発行額推移（国内・億円）

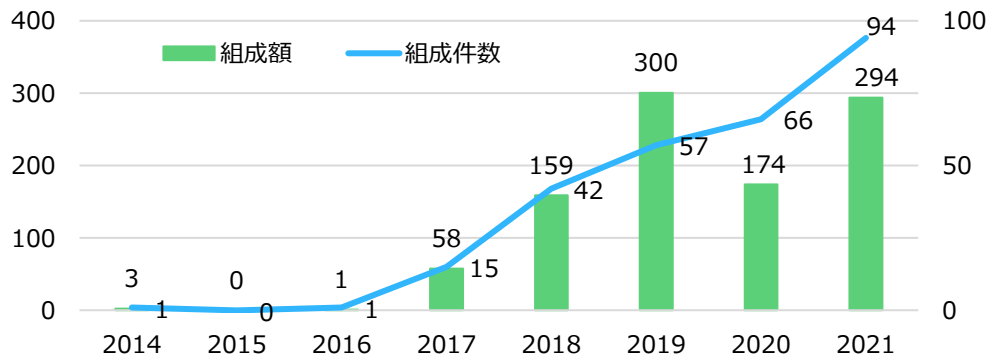


出所 環境省、グリーンファイナンスポータル（2022年1月24日時点）

【参考】世界/国内のグリーンローン組成動向

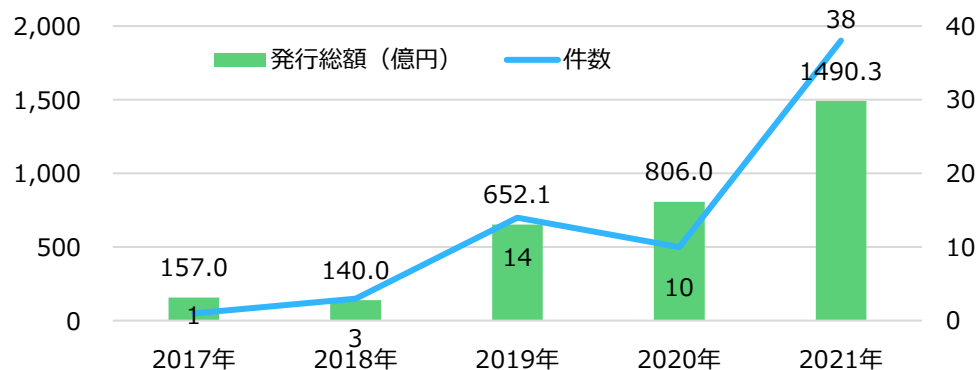
- 世界：組成額は、2020年には減少したものの、長期的には増加傾向にある。2021年は、昨年比168%増となっている。借り手セクター別にはエネルギーが最も多い。
- 国内：2021年は10億円以下の比較的小さい案件が増加（2020年：0件、2021年：9件）し、38件（昨年比380%）、1,490億円（昨年比185%）の組成があった。

組成額推移（海外・億米ドル）



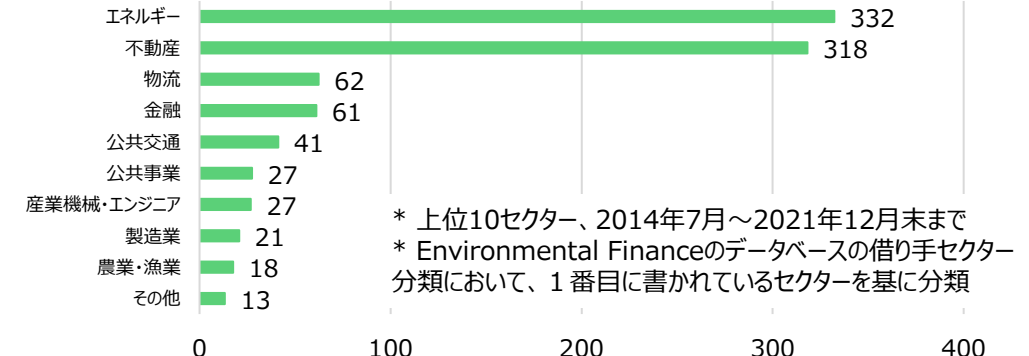
出所 Environmental Finance (2022) database、2022年1月18日取得データを基に作成

組成額推移（国内・億円）※金額情報の非開示案件は件数のみカウント



出所 環境省、グリーンファイナンスポータル（2022年1月24日時点）

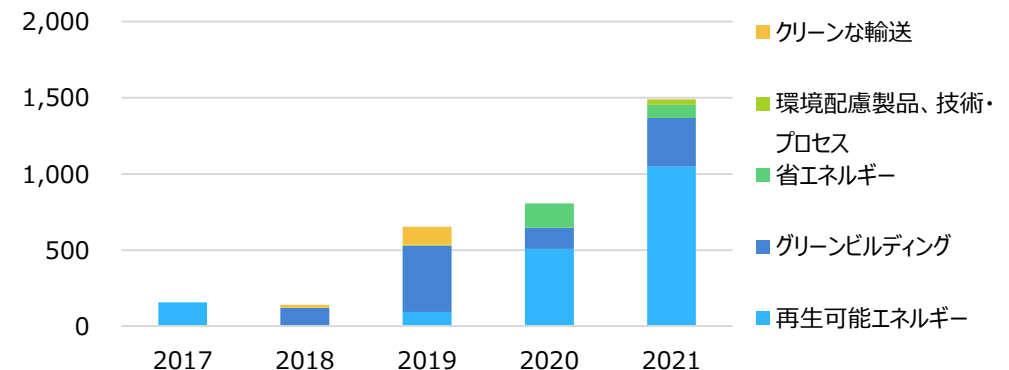
借り手セクター別累積組成額（海外・億米ドル）



* 上位10セクター、2014年7月～2021年12月末まで
* Environmental Financeのデータベースの借り手セクター分類において、1番目に書かれているセクターを基に分類

出所 Environmental Finance (2022) database、2022年1月18日取得データを基に作成

資金用途別推移（国内・億円）※複数資金使途があるものについては、主要な用途と思われるものに分類

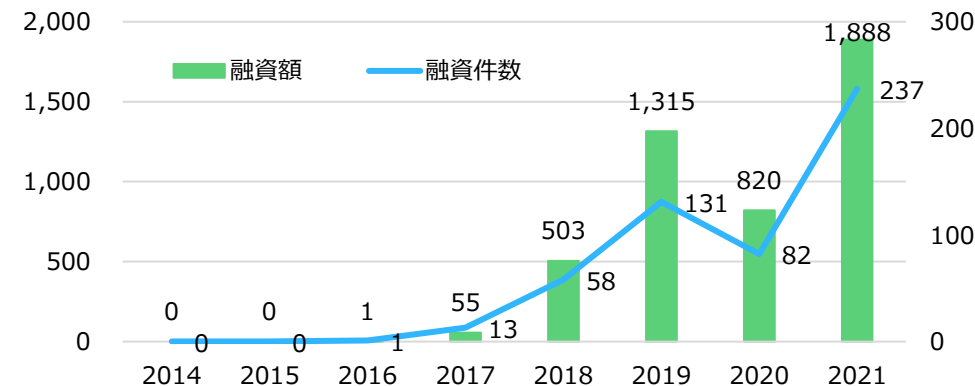


出所 環境省、グリーンファイナンスポータル（2022年1月24日時点）

【参考】世界/国内のサステナビリティ・リンク・ローン組成動向

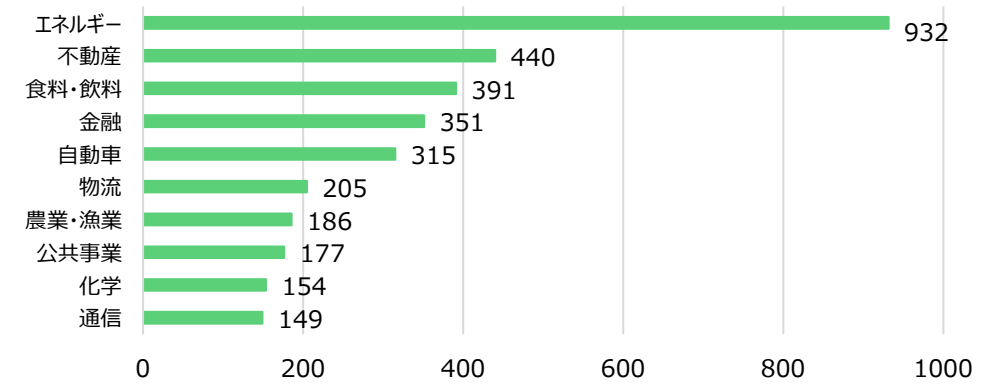
- 世界：サステナビリティ・リンク・ローンの組成額は、長期的には増加傾向にある。2021年は、昨年比230%増となっている。地域別には欧州が最も多く、借り手セクター別ではエネルギーが最も多い。
- 国内：2021年はサステナビリティ・リンク・ローンを取扱う金融機関（特に地方銀行など）が増加したことなどを背景に、54件（昨年比600%）、3,523億円（昨年比507%）と市場が大きく拡大した。

組成額推移（海外・億ドル）



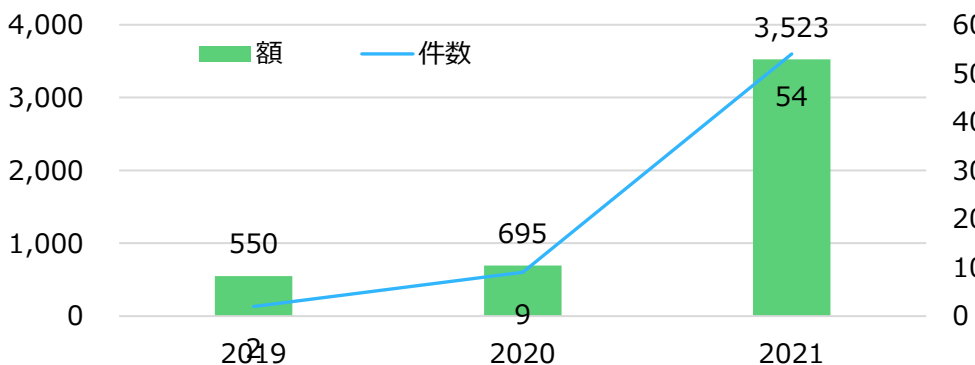
出所 Environmental Finance (2022) database、2022年1月18日取得データを基に作成

借り手セクター別累積組成額（海外・億米ドル）



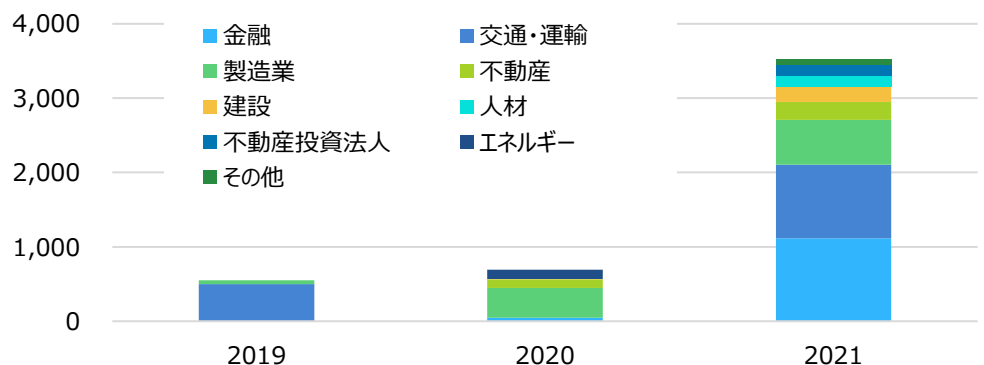
出所 Environmental Finance (2022) database、2022年1月18日取得データを基に作成

組成額推移（国内・億円）



出所 環境省、グリーンファイナンスポータル（2022年1月24日時点）

借り手セクター別組成額推移（国内・億円）



出所 環境省、グリーンファイナンスポータル（2022年1月24日時点）

グリーンボンドガイドライン等の改訂概要（2022年7月）



- 国際議論の動向や国内施策の進展等を踏まえ、2022年7月に、**グリーンボンドガイドライン等の国内ルール**の改訂を実施。
- ICMAを始めとする国際原則と整合しつつ、**グリーン性の判断基準の明確化**や、資金調達者による**市場説明の強化**などを行い、利便性向上とグリーンウォッシュ防止の双方に対応。
- 改訂版ガイドラインを活用し、**「裾野拡大」と「質の担保」**の両面から、**我が国のサステナブルファイナンス市場をさらに健全かつ適切に拡大**していく。

改訂のポイント

👍 資金調達者の裾野拡大に向けたガイドラインの利便性の向上

- ✓ グリーンプロジェクトにおける**「グリーン性」の判断の観点の明確化**
- ✓ 国内における**資金使途、評価指標（KPI）、ネガティブな効果の例について、ポジティブリストとして一覧表の形で整理**

👤 資金調達者による市場説明の促進

- ✓ グリーンボンドフレームワーク、外部レビューの実施を資金調達者に対する**重要な推奨項目**として位置付け、実施を推進
- ✓ プロジェクトに付随するネガティブな効果の特定・緩和・管理に関する市場への説明を推奨

🌐 サステナビリティ・リンク・ボンドの国内向けガイドラインを新規策定

- ✓ 今後大きな拡大が期待される**サステナビリティ・リンク・ボンドのガイドラインを新規策定**

